

第6学年 国語科 学習指導案

1 単元名 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう。

「日本のイイところ発見！プロジェクト」～6の○編集室から～

2 単元の目標

○日本文化の魅力を伝えるために、文章や図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

【思考力、判断力、表現力等C（1）ウ】

○日本文化の魅力が読み手に伝わるように、論の展開の工夫や表現の工夫、資料の提示の工夫などを活用し、書き表し方を工夫することができる。

【思考力、判断力、表現力等B（1）エ】

○デジタルパンフレット全体の構成や表現の工夫などに着目して、文や文章を整えることができる。

【思考力、判断力、表現力等B（1）オ】

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

【知識及び技能（3）オ】

○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

(1) 学習内容

本単元は、『鳥獣戯画』を読む』を読み、そこから学んだ表現の工夫を活用して、日本文化についての文章を書く複合単元である。『鳥獣戯画』を読む』は、アニメ監督である高畑勲氏の著で、アニメ監督らしい視点から鳥獣戯画のよさが語られる。普段ならばなじみのない鳥獣戯画も、アニメを例に説明されるととてもわかりやすくなる。このような論の展開の工夫が読み手にとって大切であることを、児童は実感することになるだろう。また、論の展開の工夫に留まらず、まるで実況中継のような書き出しや、読み手の印象に残る体言止めなどの文章の表現の工夫、さらには鳥獣戯画の絵をあえて分けて提示することで論に説得力をもたせる資料の提示の工夫など、高畑氏の文章には至るところに工夫が散りばめられている。児童がこれらの工夫を丁寧に読み取り、自らの文章に活かそうとすることで、読み手にとってわかりやすい文章を書くことが本単元のねらいの一つである。

本単元では、学習指導要領の「C 読むこと」の（1）指導事項「精査・解釈 ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」及び「B 書くこと」の（1）指導事項「考えの形成、記述 エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」に関する力を育てることをねらいとしている。

以上の資質・能力を効率よく身に付けるため、本単元ではICT端末を用いて学習を効率的に行う。ICT端末が学校現場に導入されて二年、非常に便利な学習の道具である反面、やはり従来の紙

と鉛筆での学習が優れている面もあると感じている。そこで、本単元のどの場面に ICT 端末が適しているのかを検討し、単元計画を構成することで、児童の学習を効率的に改善することができるのではないかと考えた。

まず、ICT 端末のメリットとして「加除修正の容易さ」が挙げられる。鉛筆で書いた下書きを修正する場合は、消したり書き直したりと労力が大きい。しかし、ICT 端末では短い時間で修正を行うことができる。次に、ICT 端末では「共有」機能を活用することで、一度に多くの人数に自分の書いたものを見せることができる。紙で書いた場合は一人ずつ回して見せる他なく、ICT 端末が便利である。これらの ICT 端末の特徴は、協働学習と相性がよい。これらのことから、「書く」学習においては「内容の検討」や「構成の検討」、「推敲」など、協働学習の場面で活用ができると思われる。そこで本単元では「デジタルパンフレット」を発刊する「編集室」という設定をし、学習をスタートする。数人のグループで編集画面を共有し、一つ一つの記事をグループ全員で検討したり、検討する中で出てきた改善点をその場ですぐに修正したりと、紙での協働学習に比べて効率的と言える。

また「図やグラフを効率的に活用する」という目標から照らしても、ICT 端末は編集作業に向いている。図の大きさや配置が自由自在である上、図の差し替えも容易である。この際、著作権についても同時に指導する。以上のように、ICT 端末の利便性を生かし、単元の目標に近づくための手立てとしたい。

本単元につながる学習として、5年次に「固有種が教えてくれること」「統計資料の読み方」「グラフや表を用いて書こう」を学習してきている。本単元と同じく、「読むこと」と「書くこと」の複合単元であり、主に文章以外の資料を効果的に活用することについて学んだ。また、4年次では「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」で、自分の考えとそれを支える理由や事例とを組み合わせ、説得力のある文章の構成の仕方について学んできている。本単元でも、それらの過去の学習で学んできたことを生かして、読み手に伝わるデジタルパンフレットを作成したい。

(2) 児童の実態

(省略)

(3) 単元の目標を達成するための手立て

(実態を受けて) 本単元の目標を達成するための手立てとして、以下の二つを設定する。

1. 「文章表現大全」を作成し、クラス内でいつでも参照できるようにする。
2. 「デジタルパンフレットを発刊する」という言語活動の設定
3. ICT 端末を活用した協働学習

<手立て1について>

本単元では、「日本文化について書かれた本」から、どれだけ筆者の表現の工夫を読み取ることができるか、ということが大切になる。そこで、「文章表現大全」を作成し、いつでもクラス内で参照できるようにする。具体的には、スマートディスプレイを用い、そこに書き足したものは、クラス全員のスマートディスプレイに反映されるようにする。そうすることで、児童は自分が見付

けた文章の表現だけではなく、他の児童が見付けた内容についても知ることができ、自らの文章に生かすことができる。

また、このような方法を取ることによって、児童は「文章表現の工夫はないか」という視点を持って読書に取り組む。このように明確な視点をもって読書をすることで、その児童自身が読書から見付けた工夫を自らの文章に生かす力を伸ばすことにもつながると期待できる。

〈手立て2について〉

「デジタルパンフレット」という言葉自体は、児童になじみのないものだと思われる。そこで、教師が予め作成しておいた見本を提示することで、デジタルパンフレットを作成し、同じクラスの友達や、同学年の教師・児童に日本文化のすばらしさを伝えるという目的をはっきりと提示する。児童に抵抗感の少ない ICT 端末での学習であることや、日本文化を伝える相手をはっきりと定めることで、児童の学習に対する意欲を喚起するねらいがある。

〈手立て3について〉

本単元では、プレゼンテーションソフトを用いて、同じグループ内で記事を共有し、検討する。グループ全員で一つの記事について検討することができる上、改善点を即時、修正することができるため、検討→修正→再度検討という学習サイクルの効率が良い。(添付資料①)

また、本やインターネットから集めた情報は、メモアプリケーションを使って効率的に管理できる。(添付資料②) 例えば「みりょく」の分野、「歴史」の分野、「参考資料」の分野など、情報を種類ごとにまとめて管理できるため、調べた内容が見やすく、思考が整理されやすい。以上のような ICT 端末の利便性を用いて、潜在的に書くことに苦手意識をもつ児童でも、学習に取り組みやすくなることをねらいとしている。

また、書いた記事は PDF に保存し直し、学習活動ソフトのグループ機能から同じクラス・同じ学年の児童に共有することができる。(添付資料③) さらに、児童の希望によっては PDF を紙に印刷し、製本して図書室に展示するなど、さらに多くの人に見てもらうための工夫もできる。

4 指導計画（13時間扱い）

次	時	学習の過程	学習内容	評価規準
第一次	1	題材設定	<ul style="list-style-type: none"> ○日本文化を伝えるデジタルパンフレットを作成するという言語活動を理解する。 ○わかりやすいパンフレットの作成のために、「『鳥獣戯画』を読む」の表現の工夫をいかして書くという学習の見通しをもち、単元計画を立てる。 	<p>【態】『鳥獣戯画』について 関心を持ち、学習の見通しをもって日本文化を発信する学習に取り組もうとしている。(観察・記述)</p>

並
行
読
書

第二次	2 ~ 8	情報 収集	○「『鳥獣戯画』を読む」の一場面についての解説文を書く。 ・ICT端末を用い、全体に共有できるようにする。	
			○「『鳥獣戯画』を読む」を読み、筆者の視点や文章表現の工夫について気付いたことを書き出す。 ・書き出された工夫はまとめておき、後で活用できるようにする。	【思C】筆者の表現の工夫や論の進め方、絵などの資料の使い方を捉えている。 (観察・記述)
		情報 収集	○伝えたい日本文化を選び、グループを作成する。 ・グループの中でのページ分担をする。	
			○「調べた情報の使い方」を読み、著作権への理解を深める。 ○ICT端末や図書資料を活用し、情報を集める。 ・集めた情報をメモアプリケーションに蓄積していく。 ・新たに発見した表現の工夫があれば、スマートディスプレイに書き足していく。	【知】読書に親しみ、読書によって、ものの見方や考え方を広げられることに気づいている。(観察・記述) 【思C】表現の工夫や図表の使い方を文から捉えている。 (記述)
第三次	9 ~ 10	内容 検討 構成 検討	○デジタルパンフレットの作り方について知る。 ・紙面の構成のしかたや写真や図の使い方について、教師見本を見てイメージを持つ。	
			○割り付けの構想を練る。 ・割り付けは紙に書いて行う。 ・後からいくらでも修正できるので、簡単に行う。	【思B】伝えたいことを明確にし、効果的に伝わるよう、紙面構成を考えている。(記述)
		考え 形成 記述	○デジタルパンフレットを書く。 ・書きながら、割り付けの修正など適宜行う。 ・グループワーク機能を使い、わからないところや迷っているところについて、友達や教師に相談しながら学習を進める。	【思B】日本文化の魅力が読み手に伝わるように、論の展開の工夫や表現の工夫、資料の提示の工夫などを活用し、書き表し方を工夫している。 (記述)

並
行
読
書

	1 1 1 2	推敲	<p>○グループ内で記事を共有し、編集会議をする。(本時)</p> <p>編集会議の視点</p> <p>1. 「見出し」と「本文」の整合性 2. どのような「表現の工夫」を用いたか</p> <p>・二つの視点に沿って、お互いの記事を読みあい交流する。良いと思った点を自分の記事に取り入れたり、必要に応じてアドバイスをしたりする。</p>	【思B】 デジタルパンフレット全体の構成や表現の工夫などに着目して、より魅力の伝わる記事に仕上げようとしている。(観察)
	1 3	共有	<p>○友達のデジタルパンフレットを読み、それぞれのパンフレットについての感想を伝え合い、単元の感想を書く。</p>	【態】 学習を振り返り、これから日本文化に関わる本を読んだり、絵や写真などを用いた文章を書いたりするときにかかしていこうとしている。(発言・記述)

5 本時の指導

(1) 本時の題材

本時では、同じグループ内で編集会議を行う。ICT 機器の画面を共有することで、一人の記事を全員で検討し、推敲する。編集会議を行う視点として、1「見出しと内容」の整合性、2「表現の工夫」が適切であるか、という二点を初めに提示する。適切であるか、ということを考える上では、これまでのクラス全体で培ってきた「表現の工夫大全」を参照し、より効果的に日本文化の魅力を伝える工夫はないか、という視点に立って検討する。このとき、指摘や批判に寄らないよう、編集会議を行う上での心構えについて初めに指導したい。また、ICT 機器の加除修正のしやすさを生かして、編集会議のあとすぐに記事の修正を行う。本時の学習を通して、表現の工夫を探して読むことの大切さ、表現の工夫を生かして文章を書くことの効果、そして協働的な学習のよさに気付かせたい。

(2) 本時の目標

○デジタルパンフレット全体の構成や表現の工夫などに着目して、文や文章を整えることができる。 【思考力、判断力、表現力等B (1) オ】

(3) 本時の評価規準

観点	思考・判断・表現
評価規準	視点に沿って交流を行い、日本文化の魅力をより伝えるための表現の工夫について伝え合おうとしている。

(4) 展開 (11 / 13)

時配 (分)	主な学習内容と 活動	指導や支援の手立て (◇評価)	教具
3	1 本時の学習 課題を確か める。	○グループごとに視点に沿った編集会議を行うこ とを伝える。 ○編集会議を行うことで、お互いの表現の工夫の よさを取り入れたり、友達の意見を自分の記事 に生かしたりでき、より記事全体を洗練するこ とをできるメリットを伝える。	
編集会議を行い、さらに日本文化の魅力が伝わる記事に仕上げよう！			
7	2 活動の例示 をする。	○例示用の記事を用意し、教師がこれからの活動 の仕方やポイントを例示する。 視点1 「見出し」が本文と合っているか。 視点2 「表現の工夫」は適切か。さらに効果的な 表現の工夫はないか。 ○まずは自分の記事について発表し、聞く側は視 点に沿って考えたことを発言するよう伝える。 ○伝えることは指摘だけではなく、よさを褒める ことも大切であること、「あら探し」ではなくグ ループのパンフレットをさらによくするための 活動であることを伝える。 ○友達の発表を聞いて考えたことや、自分の記事 について意見をもらったりしたことを記録して おくよう伝える。	○例示用の記事 ○表現の工夫大全 ○下書き ○記録シート
20	3 編集会議を 行う。	○司会と発表の順番を決め、編集会議を行う。 ○活動がうまくできない児童には、「表現の工夫大 全」の中から見えそうな表現がないかを考える よう伝える。 ○「発表の時間」と「考える時間」を分けたい場合 は、グループによって適宜調整してよいこと を伝える。	○グループのテーマ に沿った本

10	4	自らの記事を推敲する。	<p>○「記録カード」をもとに、自らの記事を修正する時間をもつ。</p> <p>◇デジタルパンフレット全体の構成や表現の工夫などに着目して、文や文章を整えることができる。（観察・記述）</p>	
	5	学習のまとめをし、学習の感想を書	○これから本を読むときの視点として、「表現の工夫」がどのようなものかに着目するとよいことを伝える。	
「表現の工夫」を探して読み、自らの文章に生かすと、魅力の伝わる文章を書くことができる				
			○ワークシートに学習の感想を書く。	
	6	次時の見通しをもつ。	○製本をし、他のグループのデジタルパンフレットを読んで交流し合うことを伝える。	